



防災避難訓練をしました



7月17日（金）6時間目に防災避難訓練をしました。地震発生→揺れがおさまるまで机の下に避難→揺れがおさまったら運動場に避難→ワークシート「地震が起きたらどうする？～自分の命は自分で守る～」を使って考えるという手順でした。

香川県では、特に懸念される災害として南海トラフ地震があります。平均すると88.2年間隔で起こっているそうです。数年前の予測では、最悪の場合、最大震度7、死者3500人、避難者数（1週間）22万人の可能性があるとされています。この地震の発生確率は、10年以内20%程度、20年以内40-50%程度、30年以内60-70%程度、50年以内90%以上でした。つまり、

みなさんが生きている間に、90%以上の確率で1回は起こるということになります。

15,899人が亡くなり、6,157人が負傷、2,529人が現在も行方不明となっている東日本大震災が発生した2011年3月11日午後2時46分、私は東京都心、32階建ビルの10階、教室の半分くらいの大きさの部屋にいました。東京都心の震度は5でした。それでも、座っていたキャスター付きの椅子が部屋の端から端まで動くほどの揺れで、必死に机にしがみついていた。100mを超える巨大なビルが、「ギー、ギシギシ」と不気味な音をたてながらゆっくりと左右に大きく揺れていました。窓から見える近くの高層ビルも左右に揺れていて、お互いにぶつかりそうになっていました。産まれて初めて「死ぬかもしれない」と思いました。50年近く生きてきて初めての経験でした。

さらに驚いたのが、東京中心部のスーパーやコンビニから、数日間、ほとんどの食品や飲み物が消えたことです。地震発生の日々の夜には売り切れ、補充がストップしたのです。翌日、自転車で20軒くらい回ってみましたが、どこも食品と飲み物の棚（たな）には何一つありませんでした。15軒目を超えたあたりで感じた「恐怖」は、今でも忘れることができません。

香川県は比較的自然災害が少ない県だと言われています。しかし、いつ、災害が発生するかは分かりません。明日かもしれません。家庭でも、防災用品の準備、最寄りの避難場所の確認等をおこなしましょう。

「思い」と「思いやり」 気持ちをカタチに

東日本大震災の後、テレビのCMで話題になった詩が右下の写真です。実際に放送されたCMは次のようなものでした。ある男子高校生が電車に乗って座席に座っています。大勢の人で混雑している電車の中で、彼は妊娠してお腹が大きくなっている女性が立っているのを見ます。座席を譲ろうと思ったけれど実行できません。すると別の女性が、その人に席を譲ってしまいます。電車を降りた男子高校生は、階段を上がっています。目の前に、苦しそうに上がっている高齢者を見つけます。そのまま通り過ぎようとしたけど、先ほどの後悔を思い出し、勇気を出して、高齢者に声をかけ、手をとって階段を上げるのを手伝います。心でどんなによいことを考えたり、思っていたりしても、それを行動にしなければ相手に伝わらないというメッセージでした。

（もしYouTubeを見る機会があったら「AC ジャパン 見える気持ちに」で検索してみてください。）

